
ある日の俺たちの風景

ヒムロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある日の俺たちの風景

【コード】

N9116H

【作者名】

ヒムロ

【あらすじ】

俺たちの日常。何の特別性も無い、ただただ普通の風景。

「いづくぞおおおおーっ！」

思い切り助走のついた足が振り上げられる。甲高い音が辺りに響いた。

夏の午後。

空はどこまでも高く、青く澄みきっていた。太陽光は肌を灼き、瞳を焦がす。

汗の滲んだ額に手を当てて目を細めても、まばゆい光は視界を占領していた。

「暑い……」

呟いてみる。が、そんなことで体感温度が一度でも下がるなら苦労しない。

それでも発してしまうのは悲しい人間の心情か。

見上げた空の青には何者にも汚されない輝きがある。

と、そこへ進入してくるは一つの影。

形はよく分からないが、謎の飛行物体が近づいていることだけは確かだ。

……かなりのスピードで。

……回避することなど出来ないわけで。

「ぐあっ」

脳に直接、杭でも打たれたような揺れが起こった。

頭頂部に鋭い茂樹が、いや刺激が走った。

痛みが駆け抜ける感覚もつかの間、おれの目に映る真つ青な空に、人影が重なった。

「大丈夫か、奏多そった。いや、………死んでる………」

最初に耳に届いたのは低い声。

少しかすれた感じが、言い得ない男らしさを醸し出している要因か。

「ええええっ！ お亡くなりになられたんですかつ」
転じて次は高い声だ。

甘くてとろけそうな、というか、なんとも言えないふわふわ感がある。

「そんなわけないだろう。たかが缶蹴りで……………すまん不謹慎だったな、故人の前で……………」

独特な低い声域で落ち着いた声が聴こえる。

頼れる姉貴、その典型だ。

「ま、まずいぜ……………俺の蹴った『ザ・カン・オブ・カン』輝樹パウー三割り増し〜」がここまでの威力を誇るとはな。どうやら俺の力は制御が出来ねえらしい……………。まあ、奏多が死んじまうのもやむおえねえな」

「ああ、死亡は致し方ない。良くあることだ。ここは盛大に葬儀を行ってやるっ」

「……………うぐっ、ひぐっ……………そ、そうですね……………。奏多さん、あなたのことは一生涯忘れません……………」

一人ずつの声分析などをやっていて、会話の内容から目を背けていたのだが……………。

「死んでないからさ」

「うわあああああ！ 生き返りやがったあああああっっ！」

「エミ君っ。そいつを浄化してやれっ！」

「し、しおっ、塩をまきますっ！ しゃっ、しゃっ！」

「ぐああああっ！ エミ、やめる目に入っったっ！」

もはやリンチ状態のおれ。痛む頭に食塩を振り掛けられ、あたりを転がり回る。

「……………」

しばらくすると、俺には気力も体力も残っていなかった。

閉じた瞼を通して太陽光を感じる。

じっとしていると、光に加えて実に多様な音が聞こえた。

蝉の声。

遠くを走る車の排気音。

子供のはしゃぎまわる声。

風の音。

そして……

「うおーい、だいじょうぶかー?」

「し……死んでないですよね? じよ、冗談だと言ってくださいです……」

「さっさと起きろ少年。いつまでも寝転がっていると、本当に熱中症にでもなってしまうぞ」

目を開けると、三人の顔が目の前にあった。

いつものメンバー、誰にも代わることの出来ない大切な仲間。

「……ああ。今、起きる」

体を起こす。両の足で、地を踏みしめる。

「じゃ、行くか」

俺は三人に向かってそう言った。

それは、俺たち四人の、全ての始まりの合図だった。

「よっしゃ、戻ってカキ氷の早食いでもしようぜ!」

「はっはっはっ。受けてたつぞ輝樹君。時間無制限のデスマッチといこうか」

「わ、わたしはやく食べるの苦手で……あ、味はイチゴでお願いしますっ……」

三人は笑いあう。つられて俺も笑った。

俺は思っていた。

この場所が楽しいと。

この時がいつまでも続いていけばいい、と。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9116h/>

ある日の俺たちの風景

2010年12月28日14時32分発行